

大峰・神童子谷～ノウナシ谷～大普賢岳

T野

2023年7月15日～17日

メンバー： T野・D山・T中m・S口・A原



まさか関西の沢に行くことになろうとは・・・！！

当初は葛根田川の支流を繋いで小和瀬川の大沢で滝登りを楽しみ、大白森の湿原で憩う！！という計画であった。東北なので、弘前からEチャンの参加も決まり、楽しみにしていたのだが・・・。出発日が近づき、予報をみると、何と秋田周辺は特別警報なみの豪雨が襲うという。沢登りどころか、現地に行くことすら危ぶまれる予報である。

「泣く子と天気には勝てない！！」ということで、我々の方が泣く泣く予定をキャンセルした。毎年のことだが、この時期の東北はなかなか天気に恵まれず困ったものだ。

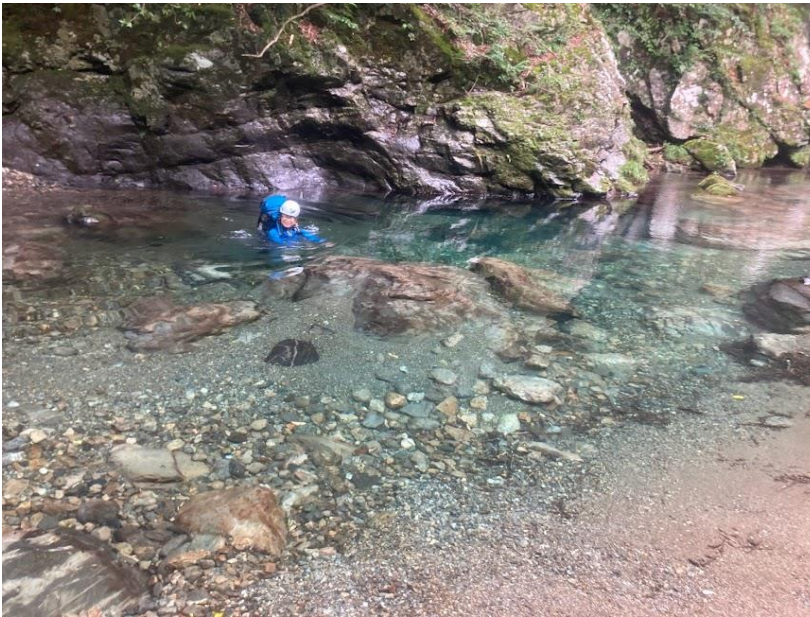
しかし、その一方で、関西方面の予報はお日様マークが並び、毎日のように線状降水帯で苦しめられていた九州や山陰、北陸と違って近々大雨も降っていないようだ。であれば、秀吉ばりに我々も急遽、「関西大返し」を行い、関西は大峰にある「神童子谷～ノウナシ谷～大普賢岳」への出兵を決断しようと思い、参加できるメンバーを集った。

■写真上 国道309号のデポ地を出発！！

■写真中 入渓点から早くもブルー！！

■写真下 梅淵で早速泳ぎ！！

神童子谷は、「神童子ブルー！！」と表現されるくらい水の色が大変美しい溪のようで、同じく大峰にある前鬼川とともに



に美溪として知られていて、以前から気になっている溪であった。さらに、詰め上がった場所は、大峰奥駆道の核心部というのも心惹かれる。大普賢岳～国見～七曜～行者還と縦走すれば修験者の気分も楽しめそうだ。ということで、急ごしらえではあったが集まったメンバーからも賛同を得られたので7/14の21:00に新宿を出発、ビューンと走って「道の駅伊賀」へ、ここで軽く入山祝いをして仮眠。



7/15

ルート中、最も美しい場所を通過する日なのに高曇りなのは少し残念だが、東北の天気を考えれば沢登りが楽しめるだけまだマシ、贅沢は言っていない。御所南ICからは一般道を走るが、国道309号は谷沿いの狭い道で、対向車が来るとホント厄介、まさしく「酷道!!」だ。神童子谷出合付近の路肩に車をデポするが、そんな道なので邪魔にならない場所を探すのに多少手間取る。それにしても、ここ、ホントに国道なの？

- 写真上 透明度抜群な流れは、浅く見えても背が立たない!!
- 写真中 「ハっついさん」のゴルジュは門のようだ。
- 写真下 上流から見た「ハっついさん」!!



何とか良い場所を見つけ、車をデポ。準備して10:15に出発。林道をしばらく歩き11:00入渓。「待ちました！！」とばかりに、早速、ブルーの淵がお出迎えである。曇っているのにこのブルー・・・さすがである。ワンポイント泳いでこの淵（梅淵というらしい）を突破し、美しい渓を歩く。やがて、ゴルジュっぽくなってくると「ハっついさん」と呼ばれる兩岸とも側壁が発達した門のようなゴルジュ。ここは腹まで浸かって難なく突破。

■写真上 前半の核心部「赤胴の滝」を登攀。

■写真中 この辺りが滑りやすくて要注意。

■写真下 滝の上も美しい！！

さらに行くと「出てきました！！」前半の核心部、「赤胴の滝！！」である。スラブ滝にブルーの巨釜を配したこの渓の絶景ポイントの一つである。ここはロープを使用して、滑りやすそうな右壁をハツリ気味に登る。先行パーティーのラストが登攀中にスリップしてロープにテンションをかけているのを目のあたりにしてやや緊張！！ラバーシューズにフェルトをセットして登る。しかし、残置ハーケンや、フィックスロープなどもあり、



慎重に登れば特に問題はなかった。

そして、この上もブルーの巨淵と小滝が連続する見事な渓谷美を見せてくれる。ワンポイント泳いだり、壁を登ったりトラバースしたりと非常に変化にとんだ楽しいところである。

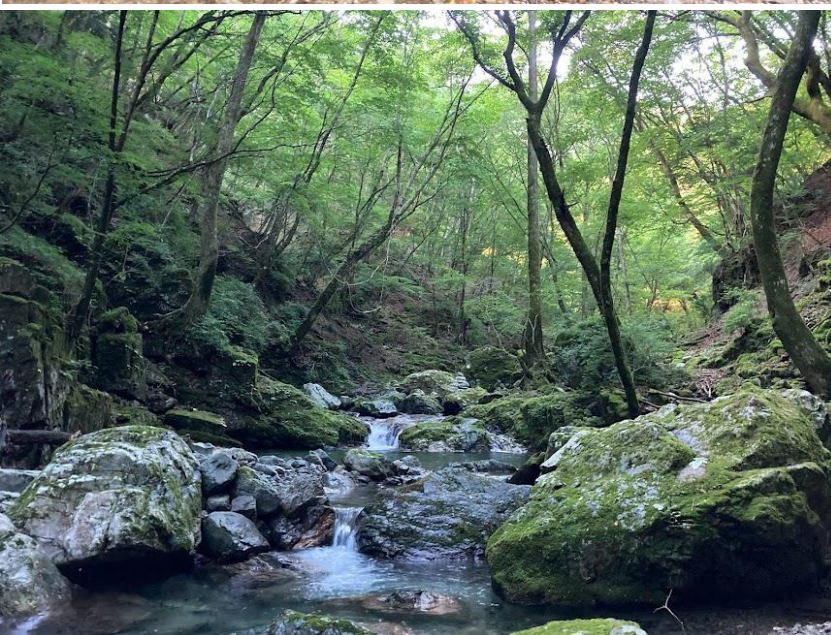
この連瀑帯を過ぎると、渓は落ち着きを取り戻し穏やかになる。辺りは見事な原生林！！見慣れた東北や関東の森とは一味違い、ちょっと屋久島の森に雰囲気似ている気がする。水は相変わらず美しく透明！！少し深いところは相変わらず透明感あるブルーである。そんな中に突然、いかにも場違いな人工物である石垣があったりする。苔むしたこの石垣はいつ頃のものなのだろう。こういう人臭いところは、去年歩いた足尾の栗原川にも少し似ている気がする。



■写真上 青い大淵と白い岩が美しい！！

■写真中 この渓最大のビューポイント、釜滝！！

■写真下 二日目は打って変わって「静」の世界。



のんびり歩いていくと、この渓最大のビューポイント、「釜滝」が現れた。この上はもうノウナシ谷と犬取谷の合点で今日の泊り場なので、暫くここでのんびりして釜滝を目に焼き付ける。釜滝は左壁に登れるようだが泳いで取付かなければならず、ロープも必要だし、今までの泳ぎで体



も冷え切っていたので、あっさり巻くことにする。巻くのは簡単である。

ノウナシ谷と犬取谷の出合は段丘になっていて絶好のテンバ。薪を拾い、タープを張れば後はいつもの時間が流れる。僕が持参した地元松戸の朝採れ枝豆は自慢の一品！！溪で冷やしたビールにはこれが一番合う。メンバーもそれぞれ自慢の一品を出し良い時間が流れる。メインはA原さんプロデュースの豚肉たっぷりの豚汁と五目寿し・・・これで、もうお腹いっぱいである。

■コースタイム

車デポ地 (10:15) ~ 入溪 (11:00) ~ (11:13)
樽淵 (11:25) ~ (11:48) へつついさん~
(11:59) 赤胴の滝 (12:50) ~ (14:10) 釜滝
(14:22) ~ (14:25) ノウナシ谷犬取谷出合



7/16

4時起床、A原さんプロデュースの冷やし棒ラーメン（これが普通の棒ラーメンと違って美味！！）で腹を満たして6:30出発。最初の4m滝は頑張れば登れそうだったが、朝から濡れたくなかったので、右岸を簡単に巻いてしまうと、しばらくは冗長、ただ、昨日にも増して森の雰囲気素晴らしいので飽きることはない。「深山幽谷」という言葉がぴったりで、昨日の「滝だ！！淵だ！！」と対応に忙しい溪相とは全く違い時間がゆっくり流れる。しかし、そんな雰囲気も1時間半ほども歩くと、溪は再び大きな変化をみせる。35mの巨瀑「ノウナシ滝」である。水量こそたいしたことではないが側壁の発達した立派な滝である。



■写真上 静かな溪が突然終わりノウナシ滝が現れる！！

■写真中 千手滝付近の地形はノウナシ滝よりも厳しい！！

■写真下 岩場の通過に1ピッチロープを出す。このルーフアイは面白い！！



実は、ここまでに2パーティーが溪を下降してきて、理由を聞くと滝の高巻きルートが見つけれず、諦めて引き返してきたということだった。1パーティーならまだしも、2パーティーである。これは土地勘のない我々を不安にさせる十分な材料である。ただ、間違いさえしなければ所詮2級の沢、そんなに難しいはずはない。ということで、逆にやる気満々で正解を見つけ出すべく高巻きを開始する。最初は左岸のリッジを登り、折り返すように左にトラバースして抜けると再び溪に戻れた。この巻きは左に折り返す場所の選定が核心である。正解は1カ所しかないが踏みあとは錯綜しているので迷いやすい。ここは、確か念のために1ピッチロープを出したような……。まあ、安全第一、無事に抜けられてメダタシメダタシだ。

しかし、すぐに次の難題「千手滝」が立ち上がる。辺りの地形はノウナシ滝周辺にも増して厳しい。ここは滝の右にあるルンゼを少し



登って、途中で岩場を左にトラバース、ここは少し悪いので1ピッチロープを引いてグッチが登る。岩のトラバースさえクリアすれば、木の枝が豊富で、それをつかんで登れば特に難しくはない。ロープを仕舞ってさらに登ると鞍部っぽい場所があり、そこからしばらく左トラバース気味に下降すると、「馬頭滝」の上に出られる。ここも核心は左にトラバースする場所の選定だ。どれも悪そうに見えるが、正解さえわかればここは2級の沢、それほど難しくはない。この謎解きが面白かった。はっきり言える



のは「これホントに2級の沢？」と思うルートは、間違いなく正規ルートではないということだ。「ここなら2級だね」という場所を旨く繋いでいければ抜けられるので、その正解を導き出すところがこの巨瀑帯突破の楽しいところである。

■写真上 ラスボスの地蔵滝で水浴びの業。

■写真中 苔が美しい源頭部。

■写真下 源頭部には小滝もあるよ。

そして、ラスボスは「地蔵の滝」、ここは左岸を簡単に巻け、これで巨瀑帯は終了。再びこの溪は苔の美しい日本庭園的な溪となる。ところどころナメやナメ滝も現れ、最後までなかなか楽しませてくれる。さらに、詰めは藪が全くなく、傾斜も緩く気持ちの良い詰めで、「いつの間にか登山道！！」とい



う感じで登山道に合流した。最高のフィナーレである！！ただ、油断は禁物、ここからが大峰奥駆道の縦走だ。すれ違う人たちは皆、荷物を持たず超軽装、例外なく若く、皆、小走りで通り過ぎていく。そう、皆、トレランを楽しんでいるのだ。

一方、我々はいい歳をして登攀具や食料、泊り装備が一式入った重装備なザックに喘いでいる。当然スピードで勝てるわけがない。「奥駆道」とはよく言ったものだ！！ここは、修験者のごとく走りに来るところなのだ。今日、すでに7時間も沢を登り詰めた後に、アップダウンあり、岩場、鎖場ありの大峰奥駆道を重荷で歩くという行為は、我々にとってはまさしく修業であった。

今回のメインピーク「大普賢岳」でさえ登ったのは僕だけ・・・ほかのメンバーは少しでも楽をするためか、ピークに拘っていないのか、あっさりこのピークを巻いていった。僕が登ったのも、体力に余裕があったからでは決してなく、単にほかのメンバーよりピークに対して意地汚かっただけである。

■写真上 快適な詰め。

■写真中 まるで公園みたいな詰め。

■写真下 稜線の登山道もいい感じ！！

途中、いいテンバがあり、水さえ採れば「もうここに決定！！」という場所があった。そこで、疲れた体に鞭打って沢を下降して水を求めたが、結局水は得られず・・・徒労感とともにその登り返しがメンタル的にきつかったこと・・・。そしてさらに歩く、歩く、歩く・・・。

冒頭に書いた「大普賢岳～国見～七曜～行者還と縦走すれば修験者の気分も楽しめそうだ。」の文言は「一体だれが書いたのだ！！考えが浅はかすぎる。今の我々がこの重荷で楽しめるわけがないであろう！！」と自分に言ってやりたいと思った。（これは行動中の感想。）



「そろそろ日が暮れる、急がねば・・・。」ようやく小屋近くの水場だ。ほんのチョロチョロで500mlのペットボトル1本入れるのに5分くらいかかるが、これは大事な作業である。そしてここから5分、19:06漸く今日の泊り場「行者還小屋」に到着！！なんと12時間30分の戦いであった。空はまだ明るく、小屋の中は暑かったので外宴会！！ビールで乾杯の後は日本酒、今日はグッチプロデュースのあんかけご飯、まだ酒が飲め

て、食欲があるのが嬉しかった。そう、これだけ歩いても完全にバテているわけではなかったのである。良い方に考えるなら、自分のペースを守って堅実に歩いた、ということである。

■コースタイム

ノウナシ谷犬取谷出合 (6:30)
～ (6:34) 4m滝～ (8:10) ノ
ウナシ滝 (9:00) ～ (9:13) 千
手滝～馬頭滝 (10:20) ～
(10:40) 地藏滝 (10:50) ～
(12:45) 登山道～ (14:28) 大
普賢岳～ (16:42) 七曜岳～
(18:08) 行者還岳分岐～
(19:06) 行者還小屋

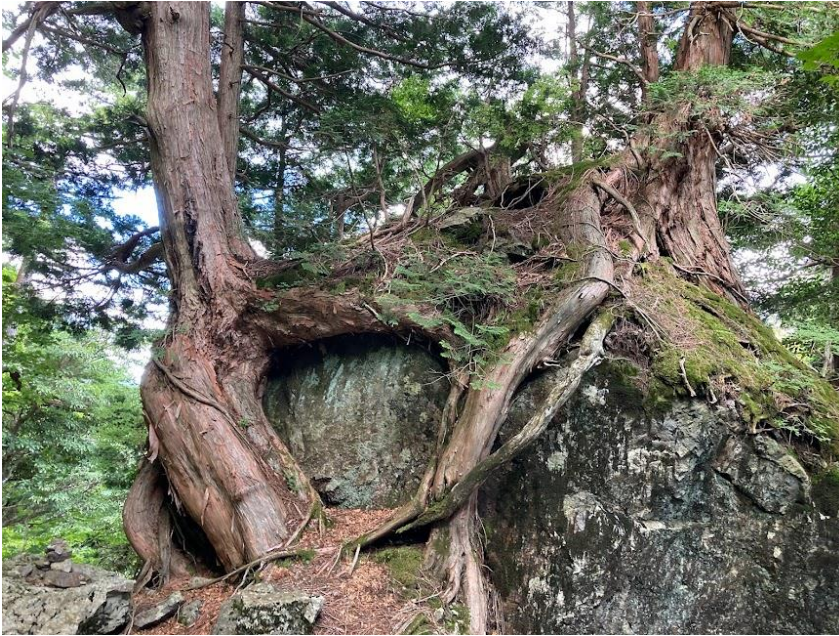
。写真上 独りぼっちの大普賢岳。

■写真中 大普賢岳からの景色、山名が分かれば楽しいのだが。

■写真下 越えてきた大普賢岳。

7/17

昨日頑張った分、今日は降りるだけで楽ちんである。あまり暑くならないうちに下りよう！！6:35 出発。急な斜面をグイグイ下り、8:15 ゲザーン！！お疲れさまでした！！



■コースタイム
行者還小屋（6:35）～
（8:15）車デポ地

充実した3日間だった。奥駆道を歩いているときは「もう、泊り装備で沢登り+縦走なんて絶対やらんぞ！！」と思っていたが、終わってみれば「日程さえ余裕を持たせば、まだ行けるか・・・？」となっている。無理はしたくないが、だからといって頑張らないのはちょっと違う、やっぱり、そこそこは足掻きたい、というのが本音なのかな？（これは、数日たってからの感想）

大峰奥駆道も、重荷では歩きたくないが、ルートの雰囲気自体は良いので登攀具やロープを持たずに10kg以下の荷物で軽快に歩けばきっと楽しいだろう。全て歩けば170kmもあるらしいので、涼しい季節に何回かに分けて歩いてみたいと思う。また、この辺りの溪も・・・。

とにかく水がキレイなのは感動した！！屋久島の沢を彷彿させた！！ピークを目指さず、美味しいところ取りでもいいから、遠いけど少し通ってみたくなった。ただ、距離より混み方が・・・。東名の渋滞、何とかならんかなあー！！

いつもながら、窮屈な車で長距離移動にもかかわらず、計画に乗ってくれたメンバーに感謝します。また、ぜひ一緒にしましょう！！

■写真上 迫力ある木！！
■写真中 稜線からの風景。
■写真下 ヘロヘロでたどり着いた行者還小屋。

